

保護者の皆様

吹田市立吹田第六小学校  
校長 田淵 久美子

### 令和4年度「学校教育診断アンケート」結果分析について

向春の候、皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素より本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

さて、12月に実施しました学校教育診断アンケートにつきまして、ご報告させていただきます。今年度は創立50周年式典開催後の時期に設定したため、回収期間が短くなりました。それにもかかわらず、保護者の皆様からのご回答率は約90%と、高い回答率をいただき感謝いたします。

今年度もご報告の前に、嬉しいお話をお伝えしたいと思います。  
今回は『吹六小 平和へのささやかな提言』の本づくりや、本を読まれての感想から。

- いつの時でも、平和について考える場面があります。今も戦争が起こったり、震災、コロナ感染など、今の子供達にとって、普通に暮らす事、すごく考えさせられる時代だと思えます。このたくさんの、子供達の言葉を読むと、ハッとする事もあり、温かく包まれる思いもあります。これからの未来も平和を願っております。
- 当たり前と思っている生活がいかに大切だということを学べたと思えました。
- ひとりひとり個性があるし、一生懸命考えたんだろえなと感じました。平和を考える事って当たり前過ぎて普段考えることがありませんが、今はウクライナ問題等色々あるので、ひとりひとりが考えるきっかけになるのはいいと思えました。
- たくさんの思いがぎっしりとつまった本を持って帰ってきて、びっくりしました！！一年生から六年生、学校にかかわる先生たちの俳句は、とても楽しく読ませてもらって、ほっこりしたり、考えさせられたりしました。そのほかの取り組みや内容もわかりやすかったです。一から作り上げるのは、とても大変な作業だったと思えます。素晴らしいものを、残してください。本当にありがとうございます。大切にさせていただきます。

以下に集計・分析結果をお伝えするとともに、いただきました貴重なご意見を真摯にうけとめ、次年度への改善のため、教職員一同さらなる努力を積んでまいりたいと存じます。

#### 【回答の仕方】

低学年(1年2年3年)の回答は2択

はい



いいえ



高学年(4年5年6年)と保護者の回答は4択

そう思う



どちらかと言えばそう思う



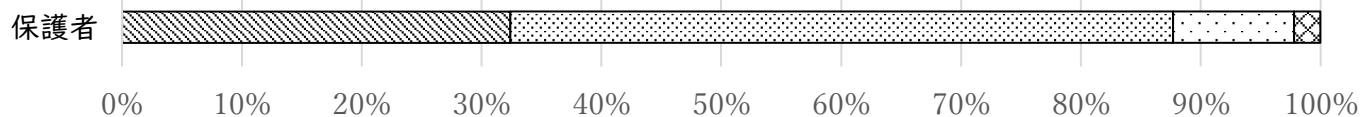
どちらかと言えばそう思わない



そう思わない



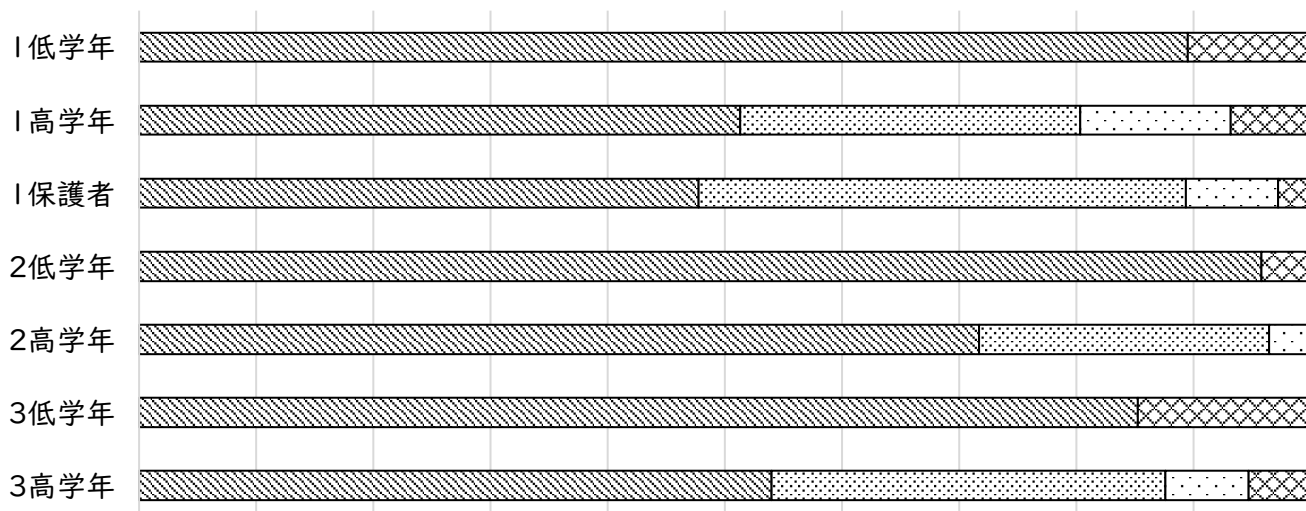
(保) 学校教育目標や教育方針を知っている。  
(HPにグランドデザインを掲載しています。)



今年度も9割弱の肯定的回答をいただきました。今年度の重点取り組みは2つです。4年目となる多様性教育 思いやりプロジェクト「あたたかい聴き方 やさしい話し方につつまれた学校づくり」と、言語力向上 つなげようプロジェクト「自ら学ぶインプット 盛り上げようアウトプット」(1年目)です。今後も教職員一同、教育目標の実現に向けて努力を重ねてまいります。

- (低) 1 学校へ行くのが楽しい。
- (高) 1 学校へ行くのが楽しい。
- (保) 1 子どもは学校へ行くのを楽しみにしている。
- (低) 2 友だちといっしょに楽しく遊んでいますか。
- (高) 2 友だちといっしょに楽しく遊んでいる。
- (低) 3 先生や友だちや学校に来た人にあいさつをしていますか。
- (高) 3 先生や友だちや来校者にあいさつをしている。

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



「学校へ行くのが楽しい」の設問では、低学年が9割弱、高学年が8割強、保護者の皆様からは、9割強という肯定的回答をいただきました。また、低学年高学年ともに9.5割以上の子どもたちが「友だちといっしょに楽しく遊んでいる」と回答していることは、大変嬉しく思います。

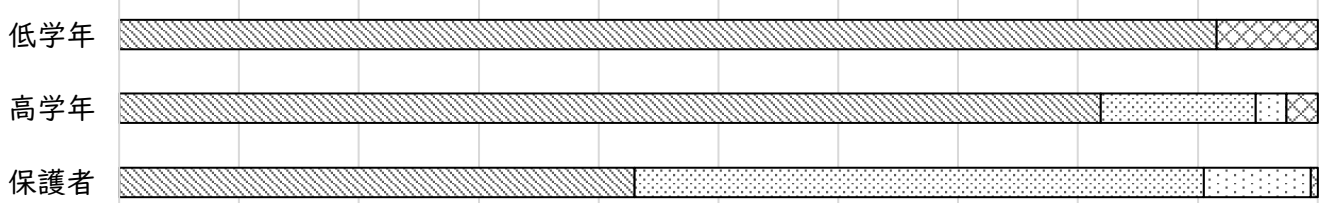
子どもたち自身から「あいさつ」ができるようになってきました。低学年の子どもたちは、朝、とっても元気なあいさつができます。近隣の方からもお褒めの言葉をいただいています。

私が来校者(お客様)をお連れして、廊下を歩いていると、高学年の子どもたちが「こんにちは」と、お客様にあいさつします。そんな「吹六っ子」の姿を誇らしく思います。



- (低) 運動会、コンサート、などの学校行事は楽しい。
- (高) 運動会、コンサート、遠足、宿泊学習などの学校行事は楽しい。
- (保) 子どもは特別活動(学校行事・児童会行事・清掃活動・校外学習  
体験学習・宿泊学習など)を通して自主性や実践力が育ってきている。

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



今年度の行事は、すべて50周年記念行事として、子どもたちに特別感を持たせ、子どもたちが自分たち自身で、楽しみながら行事をつくりあげていく。そんな教育活動(プロセス)を通して、子どもたちの資質・能力を育ててきました。

低学年・高学年ともに9割以上の肯定的回答です。特に高学年においては100%に近いものがあり、子どもたちの達成感がうかがえます。また、保護者の皆様から9割以上の肯定的回答をいただくことに大変嬉しく感じております。

今年度の成果は全校児童で開催できた行事がいくつもあることです。運動会・吹六コンサート・ワクワクフェスティバルなど、子どもたちが自ら学びつつも楽しめるものを実施しました。また、創立50周年記念式典における学習発表会では、子どもたちの堂々とした姿がありました。

1年生から4年生までの校外学習(遠足)では、普段以上のテンションの高さと同様に生き生きとした様子があります。5年生・6年生の宿泊学習では、緊張感や責任感とともに、友だちとの協働で得たものは、思い出の1ページとなるでしょう。

清掃活動にも力を入れています。「上手に拭けたね。ピカピカになったよ。ありがとう。」活動自体難しくなく、活動後、すぐに成果と達成感が得られるため、1年生から自己有用感を持たせることができます。そして、子どもたち自身で自分たちの学校を清潔で過ごしやすい環境にする。毎日たった15分の活動にも意味があるのです。

### 吹六小 めざす学校像

- ㊦ すなおに すてきに スペシャルに
  - ㊧ いつでも どこでも だれとでも
  - ㊨ 6年間を
  - ㊩ クリエイト
- 子どもも教師も一人ひとりの個性を、大切に活かして、人と繋がり人と関わりながら、それぞれが6年間過ごす学校生活や教育活動を自律し、創り出し、いつも前向きに共創している学校

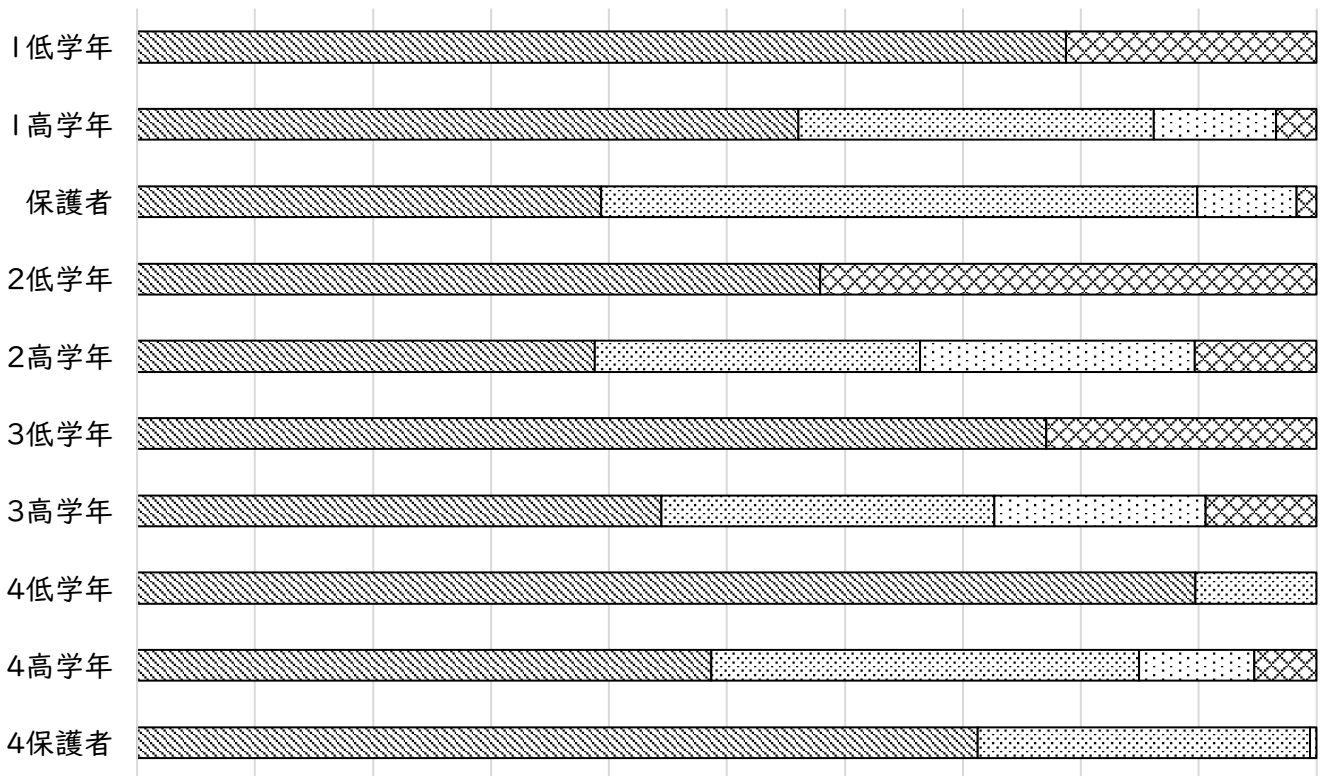
### 吹六小 めざす子ども

- ① 思いやりの心をもつ子
- ② 自分で考え表現する子
- ③ 最後までやりとげられる子



- (低) 1 学校の勉強はわかりやすい。
- (高) 1 先生は教え方にいろいろな工夫をしているので授業がわかりやすい。
- (保) 1 教職員は分かりやすい授業・工夫された授業づくりに努めている。
- (低) 2 授業中、発表することが多いですか。
- (高) 2 授業で自分の考えをまとめたり、発表することがよくある。
- (低) 3 授業でわからないことについて、先生に質問しやすいですか。
- (高) 3 授業でわからないことについて、先生に質問しやすい。
- (低) 4 自分から学ぼうとしていますか。
- (高) 4 自分から学ぼうとしている。
- (保) 2 重点取り組みである、言語能力の向上は大切である。

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



上記のグラフは、授業中での直接的なことをまとめたものです。ここでは課題について取り上げます。低学年「授業中、発表することが多いですか」高学年「授業で自分の考えをまとめたり、発表することがある」の設問です。

何よりも挙手をして発表することが良いとは考えておりません。一人ひとりの子どもの個性もあります。また、その時の子どもの体調も影響します。ただ、コミュニケーション能力は必要です。保護者の皆様からも、ほぼ100%の肯定的回答をいただいている「言語能力」の大切さは、社会で生きている私たち大人が十分すぎるほど理解しているのではないのでしょうか。だからこそ、子どもたちへは、「生きる力」として「話すこと」「発表すること」「まとめること」「プレゼンできること」などの資質・能力をつけたいと思います。具体的な対策は以下の通りです。

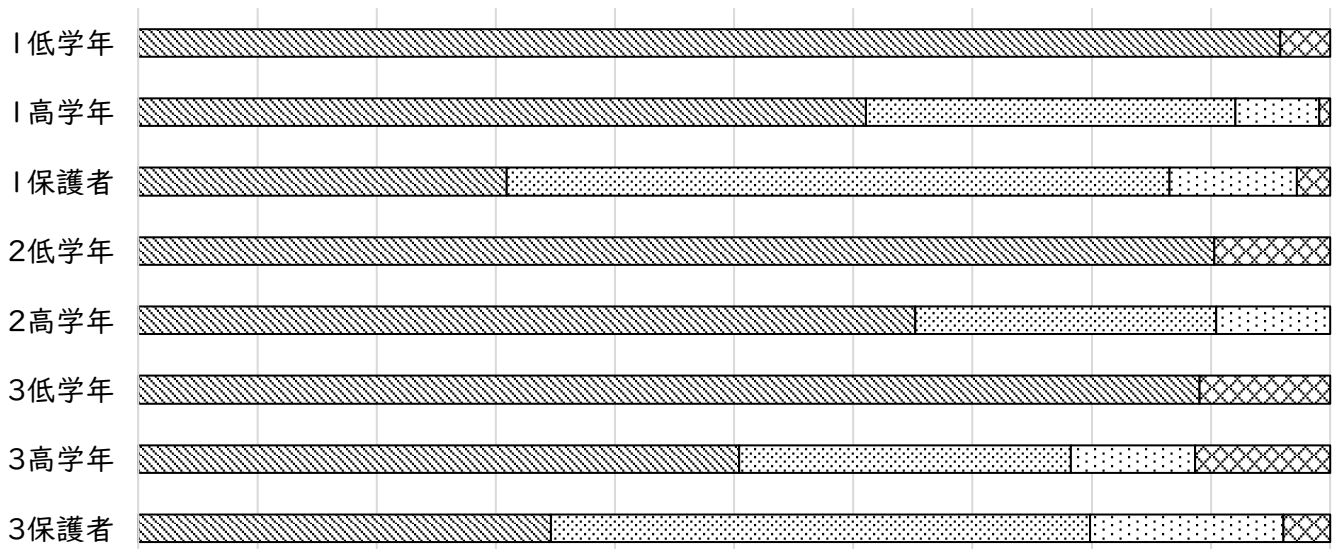
- ① 授業の中で発表する機会をさらに増やし、iPadの活用や様々な表現方法を教えます。
- ② ペア学習やグループ学習、調べ学習など、友だちとともに「学び合う」「高め合う」取り組みを増やし、学級・学年を超えた異学年交流学習の場も設定します。

どの教科の授業においても自分の意見を発表する場面や話し合う場面を増やして、対話的な学びの中から、深い学びへつながるよう努め、それが達成感や自己肯定感に繋がるよう努めます。



- (低)1 先生はわたしたちの意見や話を聞いてくれる。
- (高)1 先生はわたしたちの意見や話を聞いてくれる。
- (保)1 教職員は、子どものことを理解している。
- (低)2 先生は、自分がかんばったことをわかってくれる。
- (高)2 先生は、自分が努力したことを認めてくれる。
- (低)3 困ったことなどを話せる先生がいる。
- (高)3 いろいろなことを相談できる先生がいる。
- (保)3 子どものことについて、気軽に教職員に相談できる。

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

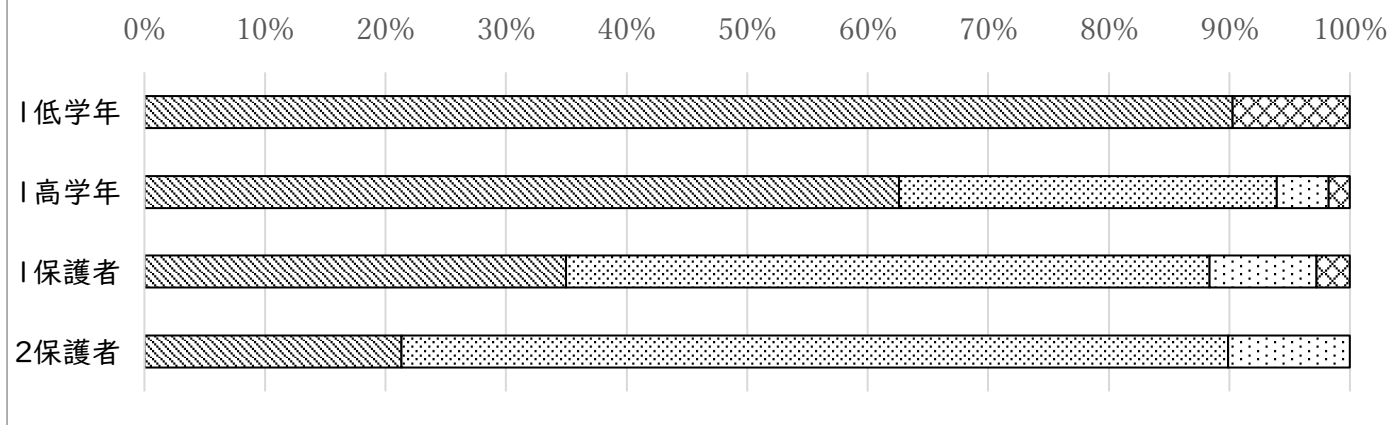


低学年、高学年ともに9割以上の子どもたちが「先生はわたしたちの意見や話を聞いてくれる」「先生はがんばったこと、努力したことを認めてくれる」と回答しています。今後も一人ひとりの子どもを大切に丁寧な対応を継続していきます。

昨年度、課題であった高学年の「いろいろなことを気軽に相談できる先生がいる」の肯定的回答は、7割弱から8割弱と、10%も上がりました。今後も担任以外の教職員も積極的に子どもたちと関わり、子どもに寄り添える先生チームを築いてまいります。



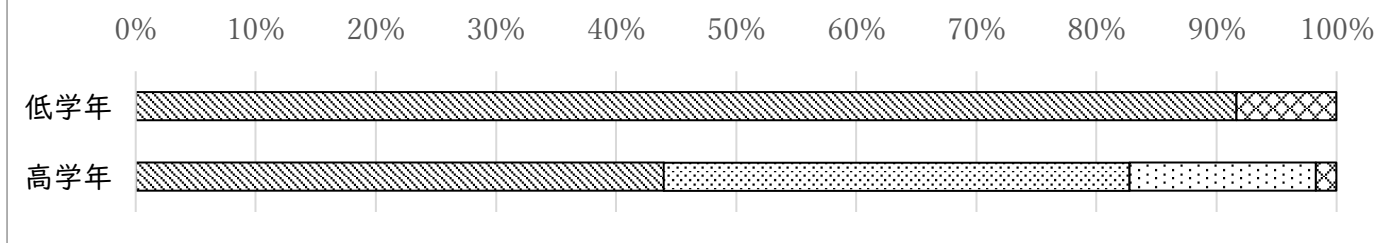
- (低) 1 「思いやり」について教えてもらっていますか。  
 (高) 1 「思いやり」について教えてもらっている。  
 (保) 1 学校は、一人ひとりを大切にして、思いやりの心を育てている。  
 (重点取組み)  
 (保) 2 重点取組みである多様性教育は、大切だと感じる。



4年目となる多様性教育の成果は、「一人ひとりの持ち味がある」「みんな違ってみんないい」と、ほとんどの吹六っ子が理解しています。4月に入学する1年生も同様に1年間かけて育みます。

アンケート結果は、9割前後と安定した高評価が続いております。スローガンはご存知のように思いやりプロジェクト『あたたかい聴き方 優しい話し方につつまれた学校づくり』です。今後も多様性教育の充実を図るとともに「思いやりの心を持つ子」を育てていきます。

- (低) 学校の決まりを守っていますか。  
 (高) 学校の決まりを守っている。



低学年、高学年ともに、肯定的回答は高いと感じます。

さて、子どもたちにとって「決まり」とはどんなことだと思っているでしょう。「ろくタン」(吹六スタンダード)に記載している決まりでしょうか。普段先生から発せられる言葉でしょうか。あるいは、一般的にマナーやモラルとして、やってはいけないことでしょうか。

「決まり」と聞くと、何だか固く、窮屈なイメージがありますが、「決まり」は何のためにあるのかと、考えてみましょう。

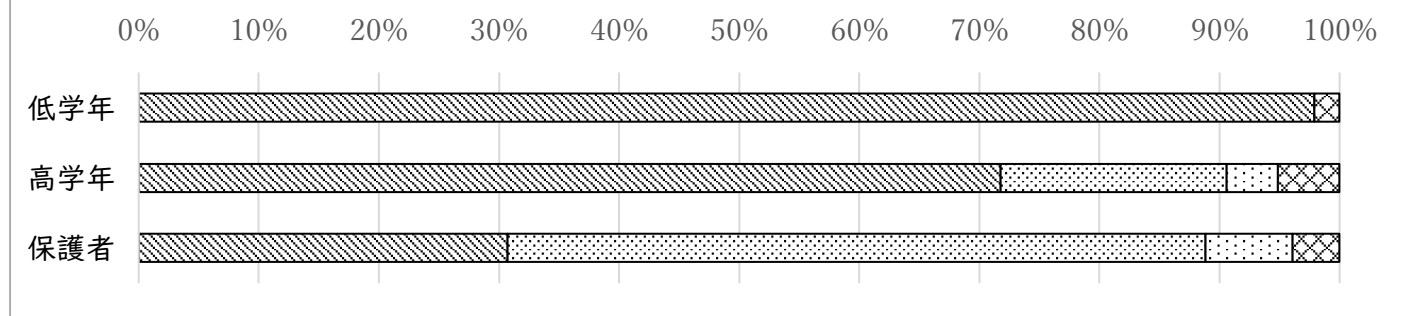
「みんなが過ごしやすいようになるため」端的には『誰もが、安心・安全に過ごすため。(暮らすため)』のはずです。学校での「決まり」は、みんなが安心・安全に過ごすための好ましい行動をさします。

例えば……

- 廊下での出会い頭でぶつからないようにするためには → 廊下や階段を歩く(走らない)
- 給食のお椀にホコリやゴミ、髪の毛が入らないように → 当番はエプロンと帽子(三角巾)を着用する

どの教員も折に触れ、マナーやモラル、ルールの話をしてきています。楽しい学校生活をおくるには、何が大切なのか、今後も子どもたちとともに考えていきます。

(低) いじめは、してはいけないことだと思う。  
 (高) いじめは、どんな理由があっても許されないと思う。  
 (保) 学校は、いじめのない学校づくりに取り組んでいる。



低学年では100%に近い子どもたちが「いじめはしてはいけない」との回答をしました。高学年では、9割以上が「いじめは許されない」と回答をしています。保護者の皆様からは9割弱の肯定的回答をいただきました。

本校が4年前に始めた、多様性教育「思いやりプロジェクト」は「いじめをなくす」「偏見をなくす」ことが目的です。当時からスクールプロジェクト支援事業に手を挙げ、予算をいただき、様々な取り組みをしました。三遊亭究斗氏による いじめ撲滅 ミュージカル落語の講演会。思いやりロードの設置、5年生のリバティ大阪見学、先生たちによる朗読劇「いじめ」など。

翌年、令和2年度、吹田市が取り入れた「いじめ予防プログラム」が始まりました。

吹六小ではいじめ予防授業「TRIPLE-CHANGE (トリプルチェンジ)」と呼んでいます。

この授業は「1st Change」……シンキングエラーを正す  
 「2nd Change」……行動を起こす  
 「3rd Change」……集団を変える の、3時間構成になっています。

授業を導入して3年目になりますので、ご存知の方も多と思います。

今年度、吹六小では入学したときから、この授業を受けている現在の3年生にスポットを当て、生徒指導主担者(子ども支援コーディネーター)や、いじめ予防リーダー教員とともに授業研究を深めています。

年に3時間の、授業でいじめが無くなるとは考えていませんが、

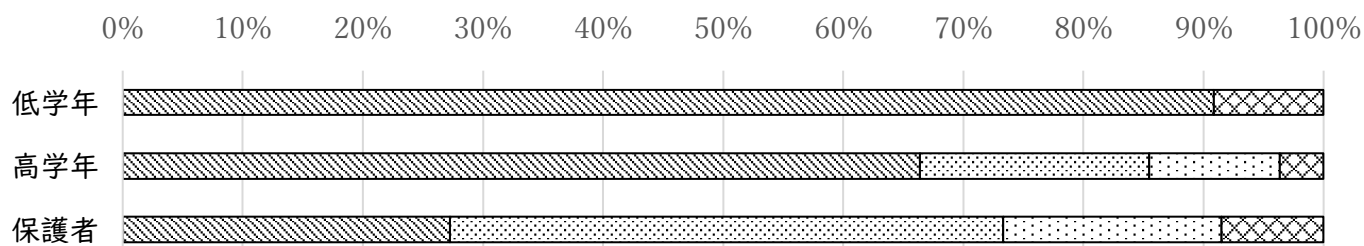
- ・いじめにあったとき
- ・いじめに気づいたとき
- ・いじめかもしれないと思ったとき

どうしたらいいのか、子どもたちとともに、本気で考えていくことが大切だと感じています。

教師団においては、いじめを認知した際には、対応を迅速かつ丁寧にし、担任だけに任せることなく「関係教職員チーム」で検討し対応する生徒指導体制を発揮してきました。また、その対応や進捗状況を全教員へ共有し、改善へ向けてのいじめ防止会議も毎週行っています。

今後も「アンテナを高くして、子どもたちの変化や行動に気づくこと」また、「子どもたちの気持ちに寄り添うこと」を大切にします。

(低) 学校の宿題をきちんとしていますか。  
 (高) 学校の宿題をきちんとしている。  
 (保) 子どもは家庭学習(宿題・自主学習・読書)が身についている。

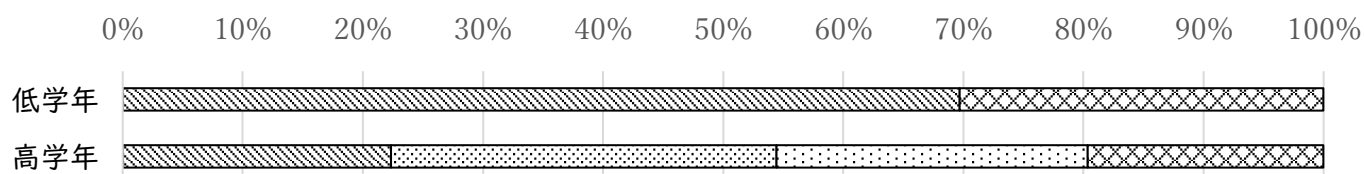


昨年と比較して、子どもたちと保護者の皆様との認識の差が縮まっています。

昨年度、子どもたちは9割以上、保護者の皆様は7割と、20%以上の違いがありました。今年度、子どもたちの自覚は平均して88%、保護者は74%と、14%の差でおさまっています。

昨年度、この紙面にて宿題の意義についてお伝えしましたように、きっと、ご家庭でも、子どもたちに前向きな助言をしていただいた成果であると思います。

(低) 図書室に行きたいと思う。  
 (高) 図書室にたくさん行きたいと思う。

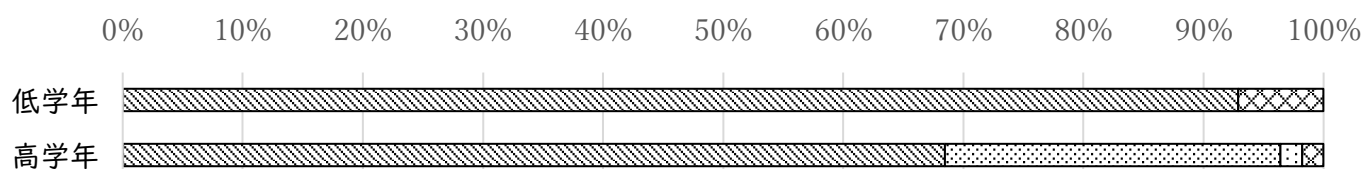


吹六っ子の課題は「書くこと」のほかに、「活字を読む」「読書をする」ことがあげられます。

今年度は、年度当初から読書支援員とともに、どうすれば子どもたちが「読書をしたい」「図書室へ行きたい」と思えるようになるか考え、様々な工夫を講じてきました。その成果はあるのです。休み時間、校長室前の廊下を「校長先生、図書室行ってくるわ」と、低学年の子どもたち。帰りには「こんな、借りてきた」と本を見せに寄ってくれます。

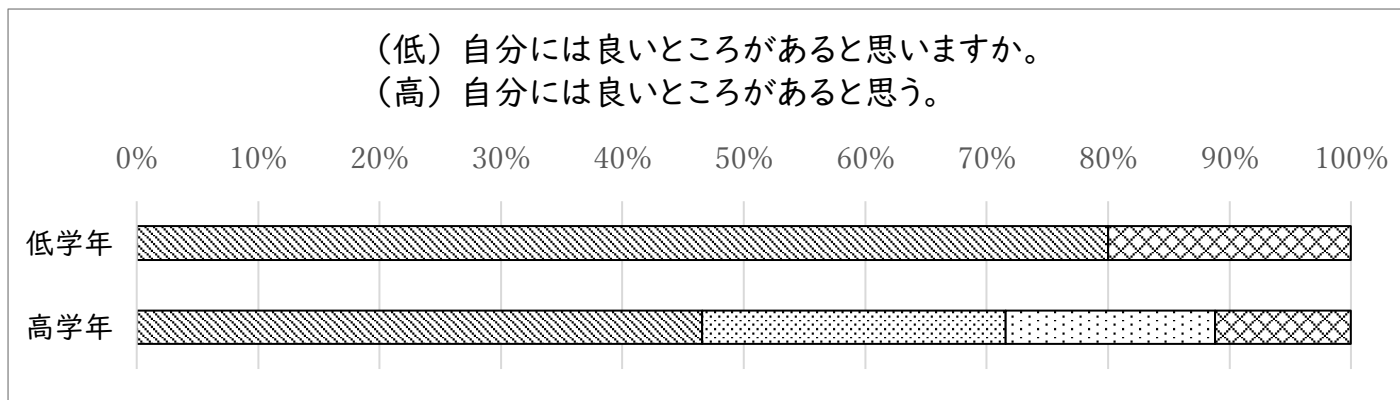
現在、休み時間等にすすんで図書室を利用する子どもは同じ顔ぶれです。この子どもたちが、読書の楽しさを友だちへ繋げられるような取組みを心がけることも視野に入れて「行きたい」と思える図書室づくりを務めます。

(低) 給食はおいしく、楽しみにしていますか。  
 (高) 給食はおいしく、楽しみにしている。



9割以上の子どもたちが、給食を楽しみにしているという高回答率です。今年度は創立50周年YEAR ということで、調理員さんが、おかずの中のニンジンの型抜きをたくさんしてくれました。最近、私の検食ではリス型のニンジンに当たりました。子どもたちは「今日、ペンギン入っていた」「私はうさぎ」「ミッキーマウスのおしりがあった」と、喜んでいます。11月15日の創立記念日には、全員の吹六っ子に型抜きのニンジンを食べさせてあげたいと、何百もの型抜き作業を積極的にしてくれました。そんな陰の努力が子どもたちを支えています。そして数値化された結果に表れています。





この設問はここ数年間の吹六っ子の課題として、全教職員で研修と研究を重ねています。

↓  
自己肯定感の低さ

昨年度、この紙面でお伝えした「認める」「認め合う」活動に力を入れることと「自信をつける」教育活動の充実を図ることは、行ってきました。

その結果、昨年度、大きな課題であった高学年の肯定的回答66%から72%に伸びたのは成果といえます。それでも、どうしてもアンケート結果に納得がいかず、分析を続けました。

納得がいけない理由は3つ

- ① 認め合う「多様性教育」を4年間続けてきて、それぞれの良さを理解している。
- ② 「ほめる」「認める」言葉のシャワーで子どもたちを育てる。
- ③ 9割以上の子どもたちが、先生から認められていることをわかっている。

そして、以下のような分析になりました

- ・言語能力、読みとる力に課題がある吹六っ子が多い。
- ・「自分には良いところがあると思う」の設問の「文意」を理解していない？

そこで、国語の授業づくりモデル校 SE(スクールエンパワーメント)担当教員の協力を得て、高学年にもう一度アンケートとりました。『吹六小 平和へのささやかな提言』本の出版後です。

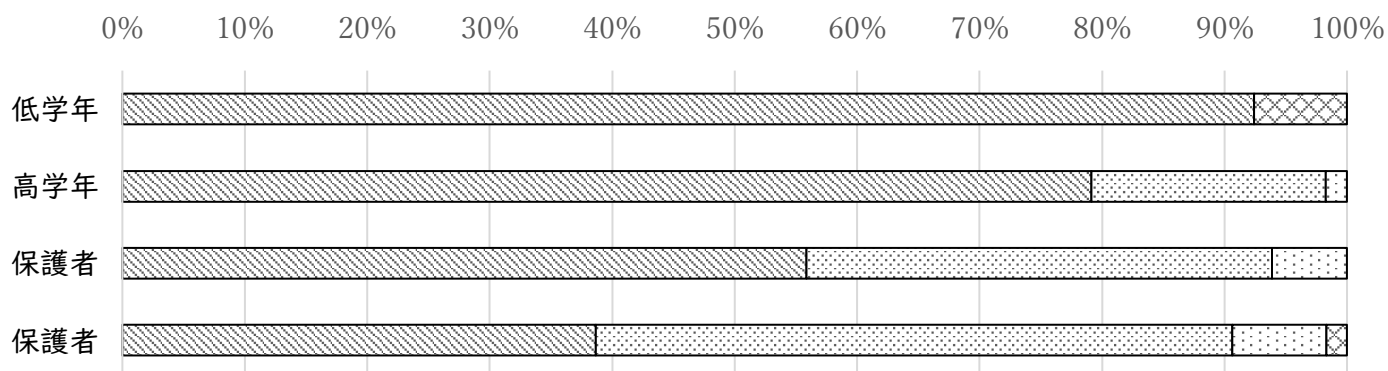
設問は「自分には良いところがある一つでもあると思う」 上の設問と文意は同じです。  
わかりやすくただけです。

すると、84%の肯定的回答があったのです。

ようやく腑に落ちた感じがしました。同時に、ここでも、言語能力の課題が明らかとなり、ますます国語科授業の重要性を認識しています。



- (低) 地震や火災などが起きたとき、どうしたらよいか教えてもらっていますか。
- (高) 地震や火災などが起きたとき、どうしたらよいか教えてもらっている。
- (保) 台風・地震、その他の緊急時の対応について知っている。
- (保) 学校は、安心安全な学校生活を送れるよう、危機管理に努めている。



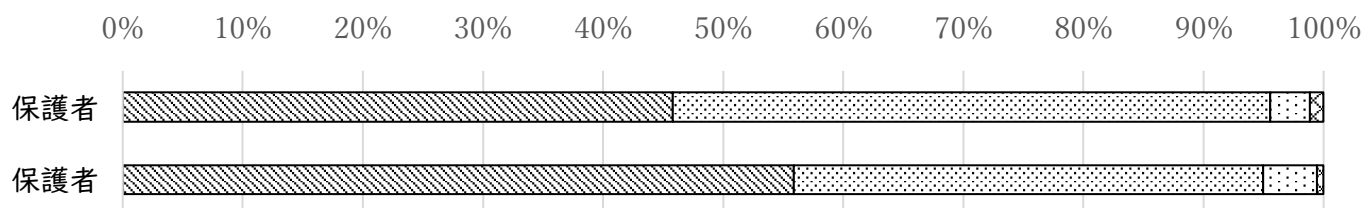
今年度、水害による避難訓練を実施しました。地震が起こったときの津波、あるいは豪雨による河川の氾濫など、災害の際、吹六小は3メートルから5メートルの水に浸かる可能性があります。

校舎では3階以上に避難する必要があります。吹六小は避難場所にも指定されていますので、保育園の子どもたちや近隣の方も来られます。だから、吹六の子どもたち、先生たちは、4階へ避難します。

自然災害のほかに、火災や不審者侵入など、予期せぬことが起こることもあります。何よりも最優先されるのが、命であり、安全であると考えています。また、未曾有の災害が起きる可能性があることを、大人も子どもも充分理解する必要があると考えます。いつ・どこで・何が起こっても、まず自分の命は自分で守る力が不可欠です。

いざというときにとるべき行動を、継続して育み、子どもたちが安心して学校生活を送れるよう努めてまいります。

- (保) 学校は保護者・地域の方々と連携・協力してりる。
- (保) 学校は子どもの様子や教育活動について情報提供を行っている。



上記、2つも設問ともに95%以上の高評価をいただきました。

今年度、運動会については、ご来賓や地域の方をお招きすることができ、吹六コンサートにおいては、保護者参観コンサートとして、3年ぶりに皆さまにも来ていただくことができました。

また、メイシアターで開催いたしました「創立50周年記念式典」ならにび「吹六っ子学習発表会」には、各方面から多数ご参加をいただくことができありがたく思っております。

今後も学校だよりや、吹六ぎやらしい(校長ブログ)を通して、教育方針や教育活動、子どもたちのや教職員の様子をお伝えしてまいります。

これからも、教職員・子ども・保護者(地域)を含めた「チーム吹六」を念頭に置いて教育活動に取り組んでまいります。